



(c)2013「くちづけ」製作委員会

障がい児者への性暴力の実態が認識される社会へ 映画「くちづけ」上映会&トークセッション

日時 2019年6月1日(土) 13:00~16:00

会場 佼成図書館 視聴覚ホール(杉並区和田1丁目2-1)

- ・地下鉄丸の内線「中野富士見町」下車徒歩2分
- ・新宿駅西口から京王バス「佼成会聖堂前行き」にて「佼成行学園」下車徒歩1分
- ・中野駅南口から京王バス「永福町行き」にて「中野富士見町駅入口」下車徒歩1分

主催 公益財団法人 庭野平和財団

※庭野平和財団は、ソーシャル・ジャスティス基金を通じてしあわせなみだの活動を支援しています

共催 ソーシャル・ジャスティス基金

協力 NPO法人 しあわせなみだ、立正佼成会

内容 ・映画「くちづけ」の上映会
・トークセッション

NPO法人しあわせなみだ 中野宏美氏(理事長)、菊池悦子氏
東洋大学社会学部社会福祉学科助教 岩田千亜紀氏

※申込について

定員150名、参加費無料

MAIL : info@npf.or.jp

FAX : 03-3226-1835

(会場の都合によりお断りする場合がございます)

2018年9月に内閣府が実施した『「若年層における性的な暴力に係る相談・支援の在り方に関する調査研究事業」報告書』では、性被害を経験した若年女性の55%に、障がいの可能性があることが分かりました。海外の調査では、障がい者は健常者の3倍、性暴力を経験するリスクを有しているという結果も出ています。NPO法人しあわせなみだの調査では、回答した発達障がい者の7割が、何らかの性暴力を経験していることが明らかになりました。

(<http://disabled.shiawasenamida.org/>)

今回、障がい者への性暴力を取り扱った映画「くちづけ」の上映(日本語字幕・音声ガイド付)とトークセッションを通じて、障がい児者への性暴力の実態を認識すると共に、必要な法制度を考える機会になればと思います。



映画「くちづけ」のStory

知的障害のあるマコは、元人気漫画家の父親いっばんに連れられ、知的障害者の自立支援グループホーム「ひまわり荘」にやってきました。マコはある事件をきっかけに、いっばん以外の男性をこわがっていました。しかし、ひまわり荘の入居者うーやんにだけは心を開き、いっばんを驚かせます。安定した生活を取り戻しつつあったいっばんとマコ、そしてひまわり荘の一同に、厳しい運命がふりかかります。

ウェブサイト:<http://www.kuchizuke-movie.com/>

出演

貫地谷しほり 竹中直人 宅間孝行

田畑智子 橋本愛 岡本麗 嶋田久作 麻生祐未 平田満 宮根誠司 伊藤高史 谷川功 屋良学 尾畑美依奈 万田祐介

障がい児者への性暴力の実態が認識される社会へ

映画「くちづけ」

上映会&トークセッション

認定 NPO 法人まちぽっと

NPO まちぽっとは、「地域社会に住み・暮らす、多くの市民の皆さんとともに、地域のいろいろな課題や可能性を考え、そこからさまざまな提案を行い、さらに実践していく」ことを目指して活動しています。

- 協働・支援・助成(現場での取り組み)
- 調査・研究・提案(社会を変えるしくみをつくる)
- 情報発信・出版
(詳しくは、ホームページへ

<http://machi-potto.org/>)

特定非営利活動法人 しあわせなみだ

ー性暴力のない世界へー

～あなたの存在が、性暴力に遭った方の支えになる～

“しあわせなみだ”は 2047 年までに性暴力をゼロにすることを目指して活動しています。

■性暴力をなくすために、3つの事業に取り組んでいます。

1. Cheering Tears ー性暴力等に遭った方を応援する事業ー
2. Beautiful Tears ー性暴力に遭った方を美容の力で輝かせる事業(施設に暮らす女性を対象としたメイク事業)
3. Revolutionary Tears ー性暴力ゼロを実現するために、社会に働きかける事業ー(「生きる力に気付けるウェブ検定「SHE(Sexual Health Education)検定」、自治体・公的機関への性暴力ゼロのための研修・講演・コンサルティング等」

現在、特に「障がい児者への性暴力」の問題に取り組んでいる。

「今の日本では、障害のあることは性能力のリスクを高めます。

しかし事実はほとんど知られておらず、被害者は法制度でも

守られていません」(詳しくは、ホームページへ

<http://shiawasenamida.org/>)

ソーシャル・ジャスティス基金

『社会課題に向き合い、解決策を提案する市民活動を』

ー民間の力を集めて支援する市民基金ー

市民による社会提言活動(アドボカシー活動)を、市民の力を集めて支援するために、認定 NPO 法人「まちぽっと」が 2011 年 10 月に設立した市民基金です。

以下の事業を行っています

- ・対話事業 「アドボカシーカフェ・フォーラム」
ー多くの対話を重ねて社会を変えていくー
- ・助成事業
ー社会提案(アドボカシー)型の NPO や NGO を応援するー
- ・募金事業 ー税控除制度を使って次の世代に寄付をする

(詳しくは、ホームページへ

<http://socialjustice.jp/p/>)

中野 宏美(なかの ひろみ)

特定非営利活動法人しあわせなみだ理事長

1977 年東京生まれ。東洋大学大学院社会学研究科修了。社会福祉士。精神保健福祉士。

友人が DV に遭ったことをきっかけに、できることから始めようと決意。「2047 年までに性暴力をゼロにすること」を目指して、2009 年「しあわせなみだ」を立ち上げる。2011 年女性デープレゼンコンテスト「女性デー特別賞」受賞。2013 年度東京都「性と自殺念慮調査委員会」委員。2018 年 AERA「社会起業家 54 人」選出。講演実績として、「性暴力被害者の人権を考える」(東京都北区)、「リベンジボルト」(東京都立川市/新潟県新潟市)、「デート DV」(東京都福生市)、「災害時の性暴力」(日本自治体危機管理学会)、「NPO 論」(明治大学大学院・法政大学)、「フェミニスト・アプローチ」(桜美林大学)、「ソーシャルインクルージョン」(大正大学)等。著書も複数あり。



トークセッション



岩田千亜紀(いわた・ちあき)

東洋大学社会学部社会福祉学科助教。日本女子大学文学部社会福祉学科卒業後、インド Jawaharlal Nehru University 修士課程、日本社会事業大学大学院社会福祉学研究科修了(社会福祉学博士)。専門は、障害者福祉、子ども家庭福祉、ジェンダーと福祉、プログラム評価、社会開発論。

発達障害をもつ母親の子育て支援や、障害者の性被害に関する調査、学習支援プログラムの評価調査等に取り組んでいる。主な論文に「障害者への DV などの暴力についての国際的な動向と課題: 文献レビュー」『東洋大学 社会学部紀要』55(1) 43-55(2018 年)など。



菊池悦子

1976 年生まれ。高校卒業後からの多くの期間、非正規雇用の販売員として働く。不安定な労働環境と女性の働き方の未来に希望が持てないことに疑問と不安を感じ、この問題を考えるために 38 歳で明治大学入学。こうした経験を書いたレポートで、2018 年に日本女性学習財団第一回未来大賞を受賞。2019 年、首都大学東京大学院に入学。